



宮古島の農家の皆様と 「みどりの食料システム戦略」や これからの農業について 考えました

令和6年6月6日、宮古島ICT交流センターで開催された、「みどりの食料システム戦略やこれからの宮古島の農業について考える懇談会」

(主催者：宮古島市の有機農業者グループ)において、沖縄総合事務局の職員が同市内の生産者の方々や自治体関係者に対して、農林水産省の施策について説明を行い、参加者全体で意見交換を行いました。

本懇談会では、まず最初に沖縄総合事務局の職員から「みどりの食料システム戦略」や、「関連予算」「みどりの食料システム法に基づくみどりの認定※」とそのメリット、「有機農業の推進」などについて、それぞれ説明を行いました。

その後の意見交換においては、参加者から「みどりの認定(※)を受けるにはどうすればよいのか」といった質問や、「地下水への影響を防ぐために、島内産さとうきびの搾りかすなどの未利用有機資源の活用により、化学肥料の使用量を低減して、島全体で循環型農業を進めていきたい」などの意見が出ました。

また、参加者の間では、宮古島で環境に配慮した農業をどのように行

えばよいかを真剣に考える議論もあり、同地域における「みどりの食料システム戦略」の推進が期待される場所です。

※みどりの認定とは、都道府県知事が、環境負荷低減に取り組む農林漁業者が作成する「環境負荷低減事業活動実施計画」を認定することです。認定された計画に基づく取組は、国が税制・金融措置により支援を行うこととしております。



沖縄総合事務局担当者からの説明



参加者との意見交換の様子

お問合せ先

農林水産部 生産振興課
☎098-866-1653



第17回沖縄県 マンゴーコンテストが 開催されました

沖縄県のマンゴーは生産量・出荷額ともに全国1位で、我が県を代表する果物の1つです。

県産マンゴーの収穫最盛期を迎える「マンゴーの日(7/15)」を前に、生産者の技術や品質の向上、生産意欲の高揚を図るとともに、消費拡大を目的として「第17回沖縄県マンゴーコンテスト」(主催：沖縄県果樹フェスティバル実行委員会)が7月11日に開催され、翌日、受賞者への表彰式が行われました。

今作は開花期の天候不良や梅雨期の大雨などの影響により、栽培条件の厳しい年でしたが、コンテストには、外観が美しく、平均糖度が15.7度と品質にも優れた44点のマンゴーが出品され、その中でも特に高い評価を受けたマンゴーに最優秀賞



農林水産部長賞を受賞したマンゴー



受賞者、来賓及び主催者

【最優秀賞・優秀賞 受賞者一覧】

賞名	特別賞	受賞者名(法人・農園名) 敬称略
最優秀賞	沖縄県知事賞	大城 大輔 (農業生産法人 有限会社サンライズファーム)
優秀賞	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部長賞	山城 裕樹・真吾 (緑's Farm)
	沖縄県農林水産部長賞	杉本 翔哉 (農業生産法人(有) コーラルファーム)
	沖縄県農業協同組合 代表理事理事長賞	外間 順子 (外間マンゴー)
	沖縄協同青果株式会社 代表取締役社長賞	新垣 智也
	沖縄県農業共済組合 組合長理事賞	仲村 盛宏・政将

として沖縄県知事賞、優秀賞として内閣府沖縄総合事務局農林水産部長賞などが授与されました。

最優秀賞及び優秀賞の受賞者は一覧のとおりです。受賞された皆様、おめでとうございます。

お問合せ先

農林水産部 生産振興課
☎098-866-1653